

被災土蔵を「左官技術研修蔵」として  
修復活用する実証的研究

NPO法人輪島土蔵文化研究会  
理事長  
水野雅男

輪島土蔵修復活用プロジェクト (2007年4月開始)

■背景と使命

- 被災した土蔵の修復支援 (行政からの支援策は無い)
- 輪島塗や日本酒の製造基盤としての土蔵修復により地場産業の振興へ
- 左官技術の技術向上

土蔵を手掛けた経験のある左官職人は全体の数割程度  
能登地域の左官技術水準が低い

■活用資産と連携

- 遊休化しているものも含めて数十棟の土蔵
- 我が国を代表する左官職人リーダーによる技術支援

■運営組織形態

- NPO法人輪島土蔵文化研究会 + 日本左官業組合連合会等

■事業展開

- 土蔵修復から左官技術研修プログラム、コミュニティレストラン建設へ
- 土蔵や工房見学等を求める観光客、富裕層を迎えるコンシェルジュ事業へ
- 活動資金確保のためのファンド「土蔵へどうぞ」

損壊した土蔵の点検調査活動 07年4月



4月14/15日 左官職人グループが 関西から駆け付け、約20棟の土蔵を点検調査

土蔵修復支援のための調査活動開始 07年4-5月



4月28日-5月5日 県内外のボランティア約70名が、39軒74棟の土蔵を点検調査

伝統的な土壁に近い工法での修復



丸竹を縦横に並べ「竹小舞」を  
掻く 約100人日の作業

泥団子を作って現場へ運び込み  
竹小舞目掛けてカー杯「手打ち」

「手打ち」  
の次は  
「大直し」  
若手職人は  
技術を教わる  
絶好の場と  
なっている

壁厚を薄くする工法での修復



割竹を密に編み込む  
竹小舞

混ぜ合わせたままの土を  
現場にバケツリレーで運搬  
左官職人5人で塗り付け

従前は収蔵庫だった空間は  
ギャラリーに生まれ変わった

日干し煉瓦による部分的な修復工法



泥を踏んでこねる  
型枠の中へ入れて  
煉瓦を抜き取る

約2週間天日で乾燥、漆喰で繋ぎながら積み上げていく



修復土蔵による新たなコミュニティ創出のイメージ

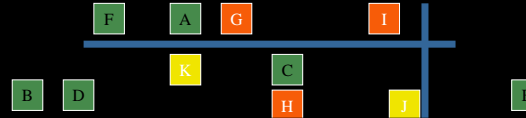
- オーナーが自己負担で修復する土蔵 技術的な支援・労働力の提供
- 土蔵A 塗師蔵（上塗り＋収蔵＋展示）・塗師屋大崎邸 今秋完成
- 土蔵B 塗師蔵（上塗り＋収蔵＋展示）・塗師屋大工邸 昨秋完成
- 土蔵C 私的空間（音楽演奏＋寝室）・元塗師屋古窪邸 ほぼ完成
- 土蔵D 酒蔵（熟成貯蔵）・清水酒造 今春着工
- 土蔵E 塗師蔵（収蔵＋展示）・塗師屋小西邸 今夏着工
- 土蔵F ギャラリー（展示）・蒔絵師西塚邸 工期未定

■NPO法人がオーナーから借用し、修復活用する土蔵

- 土蔵G ダイニング＋コミュニティガーデン・七尾邸 来秋完成
- 土蔵H ライブラリー＋カフェ（寄贈書物）・古窪邸 工期未定
- 土蔵I 左官技術研修場（日左連と協働）・天野邸 数年間

■市が修復する土蔵 技術的な支援・労働力の提供

- 土蔵J 交流サロンいろは蔵 今春完成
- 土蔵K 集会交流拠点・船木邸 今春完成



事前準備（1）剥離した壁土の撤去とアプローチの整備 2008年6-7月【天野邸土蔵】



土蔵の剥離した壁土を叩き落とし処分場へ 隣接空き地の草むしりの後砂利敷き

事前準備（2）アプローチ上の倉庫の新築移転・旧倉庫を解体・廃材を処分場へ運搬



アプローチ上の倉庫を新築移転し、旧倉庫を解体、廃材を処分場へ運搬

第1回技術研修プログラム 2008年8月



全国の左官職人が参加し、間渡しや縄を準備、試験的な小舞をかく

第2回技術研修プログラム 2009年1月



最初にサンプルや図面を基に小舞や扉の構造と強度についてレクチャー

第2回技術研修プログラム



指導者に見守られ、  
手ほどきを受けながら  
技術を習得していく

1月から毎月2回開催  
5月に手打ちWS予定

手打ち技術研修プログラム 2009年5月



手渡して団子をリレーする

最後は左官職人が饅で均し檜垣を付ける

塗り塀工法技術研修プログラム 2009年6月-11月【小西邸土蔵】



裏から板を当てて  
一段ずつ塀を築く  
1ヶ月で乾いたら  
上に積み上げる

樽巻き・むら直し技術研修プログラム 2010年6月-8月【七尾邸土蔵】



縦縄 → 横縄 → むら直し  
この後 中塗り → 仕上げへ

活動を通して得られたこと

- 研修対象土蔵の拡大  
天野邸の土蔵から、小西邸土蔵の「塗り塀工法」、七尾邸土蔵での仕上げ技術の研修へ
- 北陸3県の若手左官職人の参加者の定着化  
北陸3県で10人余りの若手職人が意欲的に研修会に参加、2人の若手が左官見習いになった
- ワークショップ・サポーターの拡大  
研修作業の下作業を手伝うサポートボランティアは大学生を中心にリピーターが増加
- 研修プログラムの実行体制（ネットワーク）の構築  
総監修・久住章氏、竹本茂之氏（石川県）と島田幸任氏（福井県）の二人の指導体制
- 地震に強い土壁構造の提案  
従来の輪島左官技術の弱点を補う「地震に強い土壁構造」が4つ提案、その技術を研修できた

- 嬉しい感動  
これまで3年間に500人を超える方々が土蔵修復ワークショップに参加、常連メンバーが多い左官職人らとの協働作業の楽しさを味わっている  
『職人仕事はカッコいいわ』『また来ますよ』

- 反省点  
当初は、技術を記録し、資料として配付することを予定していたが  
縄の播き方はとても複雑で、数種類の播き方の組み合わせで図化するのが容易でない  
何度も実習することで「体得する」しかないのが現実  
土の作り方や塗り方なども、材料によって特性が異なり、天候などによっても左右される  
実際は、経験則で行われていたため、資料化することは困難であった

活動資金の確保 器再生プロジェクト「土蔵からのプレゼントⅡ」…



漆芸研修所の研修生が職人から技術指導を受けて中塗りまで仕上げ  
その後、職人が仕上げ作業をし完成→  
研修生、職人には手間賃を支払った